



「つながる思い まちの絆」

ふるさとだより

2013 年



月号
No.22

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

久之浜・大久

戦場カメラマン渡部陽一in久之浜
久之浜・大久地区 復興へ向けた動き

四倉

震災から2年～四倉第一幼稚園の歩み
四倉小でコミュニケーションワークショップ

平

青木さんが「県民の警察官」に
プロジェクト傳シンポジウム

小名浜

夢の大舞台へ いわき海星高校
住民の思いを形に 防災緑地ワークショップ

勿来

「勿来八景フォトコンテスト特選」平沢さん
「植田公民館まつり」2日間にわたって開催



いわき海星高校の卒業式が行われ、本科 118 名が卒業証書、専攻科 20 名が修了証書を授与されました。「震災で生きることの大切さと絆を学び、大きく成長できました」という答辞が心に響きました。(3月1日・小名浜市民会館)



豊間小 6 年生 21 名が取り組んできた地元を PR する CM 制作。小学校や地域を舞台に撮影が行われ、子どもたちが元気に「豊間の今」を発信しました。(2月27日・豊間小学校)

【写真背景】海竜の里センター多目的広場の紅梅(大久)



いわき日本音楽クラブのメンバーに習いながら真剣かつ楽しそうに琴をつま弾く園児たち。ひな祭り誕生会的一幕です。この日は尺八と琴の披露もあり、伝統芸能に親しみました。(3月1日・江名幼稚園)

戦場カメラマン

渡部陽一 in 久之浜



2月4日、浜風商店街を訪れ店主から話を聞く渡部陽一さん

あなたの宝物は何ですか？

テレビでもおなじみあの顔、そしてあの独特の話し方。戦場カメラマン渡部陽一さんが、テレビ番組の収録のため久之浜を訪れ2月4日と7日、久之浜第一小学校(松本光司校長)の6年生37名を対象に特別授業を行いました。

世界各地の戦地取材してきた渡部さん。カメラマンになった理由、出会った家族や子どもたちの生活ぶりを児童らに熱く語りました。「一緒に給食を食べ、一日目の授業を終えた渡部さんが向かった先は浜風商店街。お店一軒一軒を訪れ、写真を取りながら、店主一人ひとりと言葉を交わし歩きました。そして見つけた「宝物」。

浜風商店街での宝物探し

授業二日目、カメラの使い方や撮影方法を学んだ児童たちが8班に分かれ、浜風商店街を訪れました。そして渡部さんと同じように店主らにお話しを聞き、「宝物」を探してカメラに収めました。



久一小6年児童に指導をする渡部さん

撮影を終え校舎に戻った児童たち、グループごとのベストショット「宝物」の発表です。

津波に全てを流されてお店を再開する際に仲間から送られたという「からすや食堂」の暖簾。「シユースシヨップさいとう」で見つけた旅行先での家族写真。「スガハラ理容」で見つけたはさみ。そして校長先生やクラスメイトを「宝物」と発表するグループもありました。最後に渡部さんからも、浜風商店街で見つけた「宝物」の発表。そして授業も終わり給食の後、体育館に全校児童が集ま

り渡辺さんとの交流会も開かれました。

「子どもたちは生まれたこの地を愛しています。学校が大好きだと言っていました。好きだから1時間2時間かかっても学校に通ってきています。そして、浜風商店街で見かけた子どもたちと地区とのつながり。家族のようなつながりとして皆さんの笑顔。それが、私が見つけた一番の宝物でした」と渡部さん。



浜風商店街での宝物探しを終えて皆で記念撮影

「青い鳥」を読んだ後、「オズの魔法使い」を見た後、ふと身近な幸せを確認する、そんな思いにも似たすがすがしい2日間でした。

渡部さんの特別授業の様子は、福島テレビで2月23日放送されました。番組名は「きみこそみらい」。3月23日10時半から再放送される予定です。

子どもの声に耳を傾けて! 青少年育成意見発表会



意見発表に多くの来場者が耳を傾けました

2月2日、久之浜公民館で「青少年育成意見発表会」が開かれました。主催は青少年育成市民会議久之浜・大久地区推進協議会(坂本達夫会長)。

今までの青少年育成大会と違い、新たな試みとして行われた子どもたちの意見発表会。大震災を子どもたちはどのように捉え考えているか。これからのふるさと久之浜・大久をどうしていきたいのか。そして自分の夢は何なのか。久之浜一小、久之浜二小の8名の児童

と久之浜中学校の生徒2名、計10名から意見発表が行われました。そして子どもたち一人ひとりの発表に地区の要職にある方や各小・中学校の校長先生などから意見や感想が述べられました。「子どもたちのしっかりとした意見に「大人もすっかりしなきゃ!」と思いを新たにしたい意見発表会でした」と坂本会長。

この日、青少年育成標語入賞者の発表と表彰も行われ、また、児童・生徒の言葉に来場者が書き加え完成させた「未来へのメッセージ」が2月13日各校に寄贈されました。



久一小、久二小、久中3枚準備された「未来へのメッセージ」

区長に聞く

大久区長 根本 美男さん



平成18年に区長となりの下で、2世代3世代が一緒に暮らしていた元のふるさとに戻るには、もう少し時間が必要でしょう。災害公営住宅の建設とか久之浜の復興が進んで、早く町に多くの人が戻って生活していけるようになってほしいね。そして、生活環境の整備が課題です。同じ屋根

復興へ向けた動き



久之浜・大久のみなさんへ

俳優 大森 華恵さん

「夏休みは久之浜」。大森家のある富山県から家族5人で車に乗り、毎年夏になるとおじとお婆の住む久之浜に遊びに来ていました。

震災のあった日の夜、久之浜上空からの映像をテレビで見た妹から「久之浜が燃えてる」と家族に連絡があり、おじとお婆とまったく連絡が取れないまま時間だけが過ぎていきました。4月になって訪れた久之浜は、言葉では言い表せないほどの状態に呆然としました。まだ焦げ臭く、大好きだった場所は、玄関のタイルと床板だけになっていました。そんな状況のなか、お世話になった久之浜の方々は、半壊になった家の片づけをしながら、私に「お茶飲んでけ」「ご飯食べたのけ?」「泊まってけ」と声をかけてくださいました。その訛りが懐かしくて優しくて、胸がいっぱいになりました。

「会話をする」ことは人と人をつなぎます。震災直後の事、避難所での事、今抱える苦悩や葛藤。これまで誰にも言わずに必死に我慢していた気持ちを、いろんな人と話し合い、分かち合うことでさらに強くなる絆もあるのではないかと思います。完全に元通りにはならないし、きれい事では片づけられない問題もたくさんありますが、焦らずゆっくりと人と人とのつながりを再構築してほしいです。そして、そこに私も参加させて下さい。久之浜はこれからずっと大好きな場所です。

そういえば子どもの頃、ウニの貝焼きが高級品だということを知らず、一気に3つ食べていました。ごめんね、お婆ちゃん。

2月6日、いわき都市計画事業久之浜震災復興土地区画整理事業の事業計画が認可されました。今後、県及び市は、権利者の皆様から「工事施工承諾書」の同意を得て、海岸復旧や区画整理に係る造成工事など、早期の工事着手を目指します。久之浜の復興へ向けた動きが本格化します。

防災拠点施設

(津波避難ビル)

久之浜地区防災拠点施設(津波避難ビル)の基本構想が発表されました。支所が有する災害時の防災拠点機能と公民館が有するまちづくり活動の拠点機能を一体化・集約化した施設となります。鉄筋コンクリート4階建て、災害時には約260名が収容

可能です。平成25年度内に設計と造成工事を終え26年度に建築着工、27年度中の供用開始を目指します。

津波避難のための地区懇談会

田之網そして久之浜町内で「津波避難のための地区懇談会」が開かれています。津波発生時の避難を安全かつ円滑に進めるため、参加した地区

災害公営住宅の建設に向けて

被災した方の安定した生活を一日も早く確保するため

に建設される災害公営住宅。久之浜地区の災害公営住宅の配置計画図が公表されました。入居希望者への家賃などに

復興まちづくりと土地利用

久之浜町商工会と市都市復興推進課により検討が進められてきた、久之浜地区の

区画整理地内に商業街区を設け共同商業施設建設をめざす動き。計画を進める街区の位置について、久之浜・大久地区復興対策協議会役員会

で報告がありました。協議会役員からは「まちづくり、賑わいづくりの観点からも、町内に商業街区を設け商業施設の建設は必要」との意見が多く出され、報告案が了承されました。

久之浜地区放射線量測定記録 (各区代表ポイント)

- 測定者:久之浜・大久地区復興対策協議会 安全専門部会
- 測定器:日立アロカメディカル製 TCS-172(シンチレーションサーベイメーター)

測定ポイント	平成24年3月29日		平成25年2月27日	
	地上1cm	地上100cm	地上1cm	地上100cm
田之網(田之網集会所)	0.98	0.36	0.14	0.14
南町(旧道沿い中央部)	0.63	0.22	0.12	0.12
中町(旧道高木屋旅館付近)	0.38	0.24	0.11	0.10
北町(久之浜駅前)	0.37	0.22	0.15	0.16
東町(旧久之浜漁協前)	0.39	0.19	0.11	0.10
西町1区(西町公園付近)	0.49	0.27	0.15	0.16
西町2区(久之浜第一小正門付近)	0.15	0.21	0.23	0.21
金ヶ沢(鹿野付近)	0.50	0.35	0.25	0.25
未続(未続駅前)	0.44	0.37	0.28	0.26
大久(大久公民館付近)	0.22	0.23	0.21	0.19
筒木原(久之浜第二小西門付近)	0.20	0.15	0.14	0.15
小久(町田橋付近)	0.35	0.31	0.18	0.16
小山田(小山田集会所付近)	0.47	0.28	0.23	0.21

単位はすべてμsv/h

※(株)東北インベーターのホームページ <http://www.thkinnovator.co.jp/> でより詳しい放射線情報をご覧いただけます。

絶品!つみれ汁が大人気 地域づくり協議会



大鍋大会スタートと共に多くの来場者がつみれ鍋に舌鼓

2月10日、石川町中谷自治センターで行われた「第4回石川町まちづくり交流会」に久之浜・大久地域づくり協議会のメンバーが参加しました。石川町内の地域活性化に向けた事例発表会や講演が行われた後、来場者お待ちかねの大鍋大会がスタート。町内6地区と1団体は牛や鶏などの鍋を出品、同協議会が唯一魚を使った2種類のつみれ汁を出品し

大盛況。また、副会長の阿野田城次さんと阿部忠直さんの進行で模擬競りも行われ、人気を呼んでいました。



阿野田さんの軽妙な語りで行われた模擬競り



ステージではライブ演奏も行われ、木村会長がサクスを披露

震災から2年 四倉第一幼稚園の歩み

公民館、四倉小での 保育で貴重な体験も

大震災から約1カ月後の平成23年4月7日、四倉第一幼稚園は通常どおり始業式と入園式を行いました。しかし6月中旬、強い雨が降った後に園舎内外の放射線量を調べると、隣接する山林に近い遊戯室の線量が高くなっていることが分かりました。

園長の千葉登美子先生は市教育委員会と協議をして、園児の安全面に配慮し幼稚園を四倉公民館に引っ越すことにしました。

6月21日から始まった公民館での保育。「新しい幼稚園は



「ここだからこそできる保育を」と持ち前のプラス思考で子どもたちに接している千葉登美子先生(右から3番目)たち

広くて楽しい」と園児たちは大喜びで、サークル活動をしているみなさんと歌を歌って交流を深めたこともありました。

そして昨年4月からは四倉小学校に引っ越して、空き教室での保育がスタート。年長のばら組の園児たちは図書室で絵本を読んだり、小学1、2年生が対象の読み聞かせ教室に参加したりしました。また全園児が参加した家庭科室でのケーキづくりやそば打ち体験、広い体育館での生活発表会など、小学校に間借りしている現状を生かした保育もたくさんあった1年でした。

限られた環境の中で 最大限の保育を

5名の先生とともに、時に厳しく時に優しく子どもたちに接する千葉先生は、いつも明るく前向きです。「この環境でどんな保育ができるのかを楽しみながら考えています。『ここだからできない』ではなく『ここだからこそできる』という気持ちです。過去を振り返っても仕方ありません。今がベストなんです」とプラス思考で保育に取り組んでいます。



ばら組の園児たちは園舎、四倉公民館、そして四倉小学校での保育を体験していて、年ごとに保育環境が変わりましたが、戸惑うことは少なかったそうです。

「私たちよりも、子どもたちのほうが速く順応していました。それに建物が新しいとか広いとかは関係ありません。保育するのは環境ではなく人間ですから。私たちが園児たちとどう接して育てていくかが大切なんです」と千葉先生。

3月18日、ばら組の園児26名は卒園の日を迎えました。園舎で3年間過ごす保育では味わえない思い出を作り、貴重な体験をたくさん積んだ園児たち。それは、きつとこれからの人生の糧になるはずですよ。

商工会青年部主張発表会地区大会最優秀賞

四倉町商工会青年部の副部長、佐藤伸治さんは、1月26日に開かれた平成24年度商工会青年部主張発表会いわき地区大会で最優秀賞に輝きました。

佐藤さんは創業70余年の理容店・佐藤理容の三代目。主張発表では「青年部活動と地域振興・まちづくり」をテーマに、震災時に青年部の仲間とともに避難所となった四倉高校で行った炊き出しや救済物資を配った活動などを話し、「地域のリーダーとして常に前を向き、地域コミュニティを守る活動を

していきたい」などと主張しました。

5月に福島市で開かれる県大会を控え、「今度はいわき地区の代表なので、四倉だけでなくいわきへの思いを込めた主張を考えています。出場するからには県大会でも最優秀賞を獲得して、東北・北海道大会、さらには全国大会を目指したいですね」と意気込んでいます。



いわき地区の代表として主張発表に臨む佐藤さん

演劇ワークショップでコミュニケーション能力を向上

「NPO法人PAVIC」によるコミュニケーションワークショップが四倉小学校の体育館で行われました。

これは文部科学省の「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業」の一環で、同法人の劇団員6名が講師を務めました。参加した4年生52名は5班に分かれ、講師の出したテーマに合わせて班の仲間同士でポーズを取って「自転車」「恐竜」「カブトムシ」などを表現。ほかにもコンビニエンスストアで働いている設



独創的な発想でコミュニケーション能力を磨いた児童たち

定で、新発売する弁当の食材やセールスポイントを30秒でPRする創作劇も発表しました。

個性を伸ばす英語教育を実践 ECCジュニア上仁井田教室

上仁井田字北細谷のへ子ども英会話教室ECCジュニア上仁井田教室は開講して20年。現在、幼稚園の年少組の子どもから中学3年生まで60名ほどの児童・生徒が、四倉地区を中心に久之浜や平北部などから通っています。

震災後、四倉から市内の他地区へ避難した生徒もいて、同教室を運営する新妻智子さんは引越し先にあるECCの教室を紹介したこともありました。しかし、「やっぱり上仁井田教室で勉強したい」と四倉まで通ってくる生徒もいるそうです。新妻さんは、「英語を通して

より快適な道の駅のために 頑張る清掃スタッフ

道の駅よつくら港では、常光サービズ(株)に施設管理を依頼しています。同社の3名のスタッフが館内の床やマット、トイレなどの清掃のほか、お昼時になるとフードコートの手入れを拭いたり、来館者を接客することもあります。

「気配り目配りをしながら仕事をしています。お客さんに『気持ちよく利用することができました』といわれるとうれしいですし、励みになりますね。

子どもたちの教育に携わるといふ責任の大きさを忘れずに指導しています。読み書きが得意だったり、コミュニケーションが上手だったり、発声がきれいだったり、それぞれの得意分野を伸ばしてあげたい」と話し、生徒一人ひとりの個性を大切にしたい指導を心がけています。



ECCジュニア全国児童・中学生英語検定試験の面談会場にて。右から2番目が新妻さん

より快適に買い物や食事などができるように、私たちがピカピカにします」とスタッフの小田ミイ子さんは話しています。



「心を込めて清掃しています」。左から佐藤清江さん、小田ミイ子さん、長谷川江里子さん

四倉掲示板

道の駅で 夜ライブ初開催

2月10日、道の駅よつくら港のフードコートの営業が終わって1時間後の午後7時、館内にディープパープルサウンドが響き渡りました。

平成23年の「いわき街なかコンサート」や、昨年10月の同館でのハレーイベント(本紙第17号掲載)にも出演した、BOS S木内(ベース)率いるN8yokoband(へなちよこバンド)の復興支援ライブです。

来場者は午後9時まで営業中の海力フェ特製の料理やアルコールなどと共にライブを楽しみました。



熱唱するタツ崎山さん。メンバーは東京やニューヨークから駆けつけてくれました

ふれあい市民会議が 三島町と親睦深める

2月9日に大沼郡三島町で開催された「第41回雪と火の

祭典」に、四倉ふれあい市民会議と四倉地区の小・中学生ら約60名が参加しました。

子どもたちは国指定重要無形文化財の「サイノカミ」づくりに挑戦。同町の皆さんの指導を受けながら高さ5メートルのご神木を立てたほか、町内の子どもたちと雪上綱引きなどをして親睦を深めました。

同市民会議のメンバーは会場でアンコウのどぶ汁を振る舞い、模擬店で海産物の販売も行いました。



雪の中でも元気にサイノカミづくりに挑戦した子どもたち

第4回 いわきサンシャイン マラソンを振り返って

第20号で紹介の四倉町のランナーも完走を果たしました。

「レース序盤の鹿島街道や中之作での大声援で勢いがつきました」と話す門馬一三さん



を重ねて、来年も参加したい」と、早くも次回大会に意欲を示しています。



は、4時間以内のゴールを目指していました。結果は目標より30分以上早いタイムでフィニッシュ。昨年途中棄権した無念を晴らしましたが、「自己ベストには約3分及ばなかったのが悔しい。来年こそは自己ベストを更新したい」と、さらなる上位を目指しています。

今野智功さんはアクアマリンパークで、勤務先の四倉小学校の教え子や保護者から声援を送られて力走。「38km地点までは理想的な走りでしたが、その後、失速してしまいました」とレースを振り返りますが、昨年よりタイムを3分縮めてゴール。「サンシャインマラソンの達成感は格別です。もっと練習を重ねて、来年も参加したい」と、早くも次回大会に意欲を示しています。

豊間駐在所の青木さんが「県民の警察官」に 地区あげて晴れの日祝う

希望が叶い
10年ぶりにいわきへ

住民の命を守るために献身的な努力をしてきた警察官をたたえる「第28回県民の警察官」(産経新聞、福島テレビ主催)に、いわき中央署豊間駐在所専門官の青木省三さん(58歳)が選ばれました。

青木さんは双葉郡広野町出身。昭和48年、川俣署(当時)を振り出しに地域課畑を歩みました。豊間駐在所に配属されたのは平成21年4月。退職を控えた「ふるさとに近い海の町で警察官人生の締めくくりをしたい」という希望が叶い、10年ぶりにいわきに赴任しました。

23年は地域にも慣れて「豊間地区内を全戸訪問する」という当初の目標に力を入れ始めた



毎朝校門近くに立って子どもたちを迎えています

ころ。3月11日、午後2時46分には豊間区長宅を訪ねていました。立ってられない程の揺れに急いでパトカーに乗り込み、サイレンを鳴らして沿岸部を巡回しました。

ふと、「サーファーがまだ海に
いるかも」と思い、豊間海岸に行き、駐車場まで海を眺めていると北側から第1波が近づいてきました。4m位の津波が堤防を乗り越え、目の前の道路をぬらしました。手元の時計で3時5分。「もう大丈夫」。そう思っ
て今度は塩屋埼灯台下へ。知り合いと話しながら海を眺めていると、見たこともないほど遠くまで潮が引いていき、黒い波が押し寄せてきました。

急いで小学校付近まで車を走らせ、振り返ったときには校庭まで浸水しており、津波が背後に迫っていたのを知りました。

駐在所に留まり 犠牲者の捜索

小学校には続々と住民が集まり、けが人をカーテンで包んで運び出すなど、皆で協力しながら対応にあたりました。その



2月18日、福島市で行われた表彰式には住民らによる“地元応援団”40名も駆けつけました

日は食事をする間もなく、睡眠もほとんどとらないまま朝を迎えました。

そして次の日、近くの山の上
つてみると、眼下に広がっていたのはすっかり変わり果てた町の姿。予想以上の津波が何度も、町を襲ったのを知りました。

余震や原発事故で危険な状態が続く中、全てのライフラインが止まった駐在所に留まり、小学校を拠点に犠牲者の捜索活動にあたりました。警察官として厳しい現場を見ました。が「小さな遺体を見たときは切なかつた。また、今回は多くの民間の人が捜索に協力してくれた。助かったが、つらかつたと思う」と悔しさをにじませます。

震災から2年がたちましたが、「ストレスを抱えている人も多い」と感じています。「復興が順調に進み、人の声が戻ってくるまで地域を守っていきたい」との強い思いを胸に今日も巡回を続けます。

薄磯の将来像を考えるワークショップ開催

薄磯区と薄磯復興協議委員会の共催で土地区画整理事業に関するワークショップが1月12日から、3回にわたって行われ、住民のべ約70名が参加しました。

地区の土地区画整理事業の計画方針図をもとに、①高台居住エリア②居住・生活サービスエリア(平場)③雇用創出・集客エリア④交流エリアのゾーン別に今後の将来像についてアイデアを出し合いました。

高台居住エリアでは、住宅建築の際に共通のルールを設けることで、景観が良い町並みにしたいという意見で一致。ルール作りに向けた合意

形成を課題に挙げました。また、塩屋埼灯台などの観光地に隣接する交流エリアには広めの駐車場を設け、観光客の受け入れやイベント等の開催などに活用したいとの声が上がりました。

同区、委員会では今後も定期的に話し合いの場を設け、将来のまちづくりについて検討を進めていきます。



町の将来像について話し合う参加者たち

CM制作パート2

子どもの目線で ふるさと豊間を表現

6年生21名が〈吉本興業(株)〉の協力を得て取り組んできた、ふるさとの良さをアピールするCMの撮影が2月27日、学校や近くの海岸で行われました。

津波被害で観光、産業資源が失われてしまった今、どのようなふるさとを表現しようか真剣に話し合いました。授業の中で海洋冒険家の白石康次郎さんの話も聴き、大人たちのさまざまな生き方にふれながらシナリオを練り上げました。失われてしまったからこそ分かる、大切なもの、普遍的な何かを感じさせるストーリー。撮影を終え、吉田陽さんは「楽し

かった。世界中の人に豊間ががんばっているところを見てもらいたい」と息を弾ませました。作品は沖縄国際映画祭で公開されるほか、3月22日の卒業式でも上映する予定です。



海岸での撮影風景

災害公営住宅の 造成工事が スタート

平豊間、薄磯で災害公営住宅の敷地の造成工事がスタートしています。

市住宅課によれば昨年12月に敷地造成工事を発注しており、現場状況に応じて工事が始まっています。沼ノ内は土盛り等の造成工事が不要なため、建築基礎工事着工に向けて準備を進めているところ。新年度からは、建築工事も発注の予定となっており、順次建物の建設も始まります。

大型車輛の出入りが増えることから通行にはご注意ください。

プロジェクト傳

震災前の町並みと屋号を絵地図に再現



シンポジウムで屋号調査の報告をする坂本さん

プロジェクト傳(鈴木利明会長)は2月23日、豊間公民館で「あんばんさま図絵」シンポジウム―絵地図にのこす町の記憶―を開きました。約80人が訪れ、薄磯・豊間地区の屋号の話や昔懐かしい旧小正月の行事に思いをはせました。

静岡市文化財審議委員などを務める愛知大学非常勤講師の松田香代子さんの講演に続き、遠藤光子さん(豊間)、坂本武一さん(薄磯)が屋号調査の結果を報告しました。たとえば、「へいくま」という屋号は「平吉」「熊吉」という兄弟が住んでいたことが由来であることなど、聞き取り調査で分かった屋号の起こりや変化について話しました。

同団体は昨秋、名称をプロジェクト傳からプロジェクト傳に変更。日本民俗建築学会などの協力を得て、震災で失われた町の風景や風習を残すための取り組みをしています。現在、多摩美術大学の教員や学生らの協力を受け、かつての町並みを手描きで再現した絵地図を作成中で、今夏には約100ページの冊子にまとめ、豊間地区の被災世帯に配布するそうです。

これらの取り組みは「まち・未来創造支援事業補助金災害復興支援事業」を活用しているほか、全国の支援者から寄せられた寄付金が役立てられています。

復興事業の スピードアップを

市とURが協力協定

(豊間・薄磯)

市は2月8日、独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)と平豊間、同薄磯地区の復興事業にかかる協力協定を結びました。

両地区は津波被害が大きく、区画整理にかかる権利者数も800世帯以上と膨大。市独自で事業を進めることが困難であることから、同機構と連携しながら区画整理事業の合意形成や事業の推進のためのコーディネートを行い、復興事業のスピードアップを図ります。

同日は市役所で協定の締結式が行われ、渡辺市長、同機構の小山潤二震災復興推進役が協定書にサインをしました。同席した鈴木徳夫豊間区長は「復興事業はいよいよこれからが正念場。協力協定に期待したい」と話しました。



市役所で行われた締結式には薄磯、豊間の両区長も出席

津波避難のための地区懇談会開催

市は平豊間、薄磯、沼ノ内の各地で1、2月にかけて、「第一回津波避難のための懇談会」を開きました。

東日本大震災の経験をふまえ、地区ごとの津波避難の実情に合わせた計画を作成しようとして実施。懇談会で住民の意見を取り入れながら、安全かつ円滑な避難を行うため、避難路や避難誘導サインの整備を前提とした「津波避難のための防災・減災計画」を策定し、25年度から整備をスタートさせる予定です。

このうち豊間では区役員や消防団員ら20名が参加し、3班に分かれて意見を出し合いました。震災時に避難した神社、坂道、山などを地図に落とし込



意見を出し合う参加者たち(写真は豊間地区)

み、将来の津波避難に向けた課題や改善策について話し合いました。

また、3地区とも市内有数の海水浴場があることから、海岸利用者の安全で円滑な避難誘導ができるような計画づくりの必要性も検討しました。

復興までの 時を刻んで 婦人会が時計寄贈

豊間婦人会(鈴木勝子会長)は1月29日、豊間区連絡所に時計を寄贈しました。住民が集う場所で役立ててもらおうと婦人会の運営費のなかから購入。さっそく、区連絡所に設置されました。

時間が狂わない電波時計で「数字が大きく見やすい」と利用者にも好評。鈴木会長は「今後も区と連携を深めながら住民の絆をつなぎ、復興を目指したい」と話しました。同会では豊間公民館にも同じ時計を贈りました。



豊間区連絡所内で行われた贈呈式

夢の大舞台へ いわき海星高校、センバツ出場決定

第85回記念選抜高校野球大会に21世紀枠でいわき海星高校が出場することが決まりました。
生徒たちは、現在も津波被害の爪痕が残るグラウンドでセンバツに向け練習に励んでいます。

逆境を乗り越えて 厳しい環境をもプラスに

「こういう環境だから負けたとは言わせたくないのです、厳しく指導してきました。よい方向に成長していると感じています」と話すのは若林亨監督。

一昨年の3月11日の津波で甚大な被害を受け、水の引いたグラウンドや校舎は大量の砂と瓦礫で埋めつくされました。その光景を目の当たりにし絶



選手16名とマネージャー2名。最高の試合になるよう力を合わせがんばっています

皆さんのあたたかい 支援に恩えられるように

朝は小名浜高校のグラウンドを借りて練習し、借りられない時間は堤防を走り込んだり、校庭の片隅から海に向かって打ち込んだり、足に重りをつけて砂浜を走ったりと、校庭が満足に使用できない厳しい環境の中、できる限りの練習を続けてきました。

センバツ出場が決まり、練習に一層力が入ってきた部員たち。現在使用しているベンチプレスやのぼり棒は、若林監督が材料を集め作ってくれたもの。近くの網工場から使用済みの

望を感じたと言います。しかし、ここであきらめたら負けだと思い、部員たちと校庭の瓦礫の片づけを始めました。やがて全国からボールやグラブなどの用具が届きはじめ、ボランテニアが瓦礫の撤去を手伝ってくれたおかげで練習を再開することができました。



↑休日にもかかわらず練習を手伝う先輩たち。「気負わず楽しくやって欲しい」と話します



↓みんなで作ったバッティングゲージ。こんな環境だからこそ培ったものは大きいと逆境をもプラスに!!

サンマ漁の網を譲ってもらい、部員全員でバッティングゲージを作成。しかし、16名という少ない人数ではゲーム形式での練習をするのは困難。すると、引退した先輩たちが時間を作り練習の手伝いに来てくれました。「本音を言うと、自分たちが行きたかった。でも決まったからには全力で応援したい」と話す先輩たち。休みの日も、朝から暗くなるまで力を合わせ練習に励んでいます。キャプテンの坂本啓真くんは「先輩たちをはじめ、支援してくださった多くの方に恩返しのできるよう感謝の気持ちを忘れずプレーしたい」と甲子園にかける思いを力強く話しました。

ふるさとの今

震災から2年が経った小名浜沿岸地区の様子をフォトギャラリーにてご覧ください。



永崎



江名



三崎公園



下神白



中之作



アクアマリンふくしま

住民の思いを形に

第1回 防災緑地ワークショップ



防災緑地の断面模型。工事着工まで永崎海岸に設置されている予定です

ワークショップは今回を含め4回行われる予定であり、その結果を踏まえ、防災緑地整備を進める予定となっています。

ワークショップでは、永崎地区防災緑地の計画概要についての説明の後、防災緑地を整備する永崎海岸で断面模型と現況樹木の確認をし、グループワークとして5班に分かれ、緑地の活用方法について意見を交わしました。

永崎地区防災緑地ワークショップ(県いわき建設事務所主催)が2月24日、江名中学校で行われました。はじめに県から「永崎地区防災緑地は、昨年11月に都市計画決定され形状などが決まりましたが、植栽計画などについては永崎らしい緑地を目指し、ワークショップで皆さんと一緒に考えていきたい」とのあいさつがありました。

津波避難のための地区懇談会 小名浜地区

2月4日、津波避難のための地区懇談会が小名浜公民館で開かれました。小名浜地区の区長や役員など約30名が参加しました。

市の担当者が懇談会の目的やスケジュール、施設整備計画、さらには津波避難の前提条件や車による避難の危険性などを説明し、原則、徒歩による避難を呼びかけました。

懇談では、参加者それぞれの震災時における避難経路や手段を地図に書き込み、その際に感じた問題点や円滑に避難するための課題と改善点、高齢者などへ避難に対する対応策について意見を交わしました。

また、多くの観光客などが訪れるアクアマリンパークからの避難についても話し合いました。

ランナーの応援とまちの復興を願って



江名小学校の子どもたちが「負けしないで」「ミッキーマウスマーチ」など4曲を演奏しました

第4回いわきサンシャインマラソンが2月10日に開かれました。フルマラソンは、いわき陸上競技場をスタート、小名浜港アクアマリンパークをゴールとし、小名浜の海岸沿いを駆け抜けます。第1折り返し地点の江名漁港では大漁旗が飾られ、万祝や法被を着



折戸青年ふるさとを守る会のメンバー。マラソンと地域を盛り上げようと力いっぱい応援



目の前に海が広がる第1折り返し地点。沿道の声援に「ありがとう」と応えながら走るランナーたち

た地元の人たちが太鼓や鉦をたたきながら応援し、漁港は盛り上がりを見せていました。

小名浜トピックス No.11

生涯現役!! このまちが元気になるように

「本当にもうだめかと思った。会社を再開するのも、あきらめるのもどちらも相当な覚悟が必要だった」と話すのは、永崎で製造業を営む(株)丸上の秋山成二社長。

震災時、胸の高さまでの津波が押し寄せ、工場内の機械のほとんどが水に浸かり、波がひいた後には大量の砂が残りました。事務所は流され、機械なども修理が必要。再開するには相当の覚悟が必要でしたが、ここであきらめてはいけなくて震災から約5ヵ月後に再開しました。震災後は、主に給食用の冷凍食品を製造。そのほか、魚肉練り製品やマリンスターキなども製造しており、地域の朝市などにも積極的に参加しています。「生涯現役」をモットーに、これからも地域の活性化の手伝いをしたいと力強い抱負を話しました。



看板はお孫さんが書いた字で作ったとうれしそうに話す秋山社長と奥様の文子さん

まちの話題

折り紙でひな人形作り

いわき・ら・ミュウ

毎月第2日曜日に(いわき・ら・ミュウ)では「親子折り紙教室」が開かれています。小名浜地区のサークル「おはなしボックス」が主催している同教室は、約8年間続いており常連の子どもたちもたくさん。

今回は約30名の親子が参加し、3月3日の桃の節句に合わせて簡単なひな人形を作りました。講師の櫻井啓子さんと松園末子さんは「たくさんの方々とのふれあい、話をしながら出来るので毎回楽しいです」と話しました。教室は季節に合わせたテーマで開催しています。ぜひご参加ください。



出来上がったひな人形。「カラフルな和紙が可愛い!」と大好評



1枚の和紙で作れるひな人形を、真剣な表情で作成中

数々の苦難を乗り越え”特選“を受賞

1枚の写真に思いを込めて

大好きな写真との出会い

錦町上中田にお住まいの、平沢ミチ子さん(72歳)。風景を撮影するようになって、およそ20年が経ちました。

きっかけは、40歳の頃から公民館のサークル活動で始めた油絵でした。絵の参考にするため風景を撮っていた平沢さんは、いろいろな場所に足を運び、素晴らしい景色に出会うにつれて写真を撮ることの楽しさを知っていったそうです。

その後さまざまな撮影スポットを巡り、たくさん風景をカメラに収めてきた平沢さん。地域の写真クラブにも所属するほか、自身の作品をコンテス



「これからも、続けられる限り撮っていききたい」と話す平沢さん。自宅には、自身が撮影した家族写真や風景写真などがたくさん飾られていました

トに応募するなど、積極的に活動してきました。

写真で元気を届けたい

震災当日、平沢さんは市文化センターで、知り合いの写真展を観覧中でした。そんな時、突然起こった大地震。その日は、車で8時間かけて自宅まで帰ったそうです。「怖くてしようがなかった」と当時を振り返る平沢さん。それからというもの、いつ起こるかも分からない地震に怯え、しばらく写真を撮ることができなくなっていました。さらに、昨年9月にご主人が病気に倒れ県外へ入院することに。度重なる困難のせいで家にこもりがち



応募された45点の作品の中から、特選に選ばれた平沢さんの作品「元気・元気」。毎年冬になると沼部町の河川に飛来する白鳥の、勇ましく、美しい姿を撮影しました

になり、写真を撮ることも諦めていました。

しかしそんな時、お子さんや親戚のみなさんが「平沢さんの写真を見てると元気になる。また写真を撮ってよ」と励ましてくれたそうです。

そして今年1月、しばらくぶりに撮影を再開。「私が撮った写真を見て、主人にも元気になるってほしい」という思いを込めて撮影した写真が、見事2年ぶりに行われた(第3回)勿来八景フォトコンテスト・フリーの部で特選に選ばれました。「自分だけの力でここまで来れたわけではないので、支えてくださったみなさんに感謝したいです」と最高の笑顔を見せてくれました。

子どもから大人まで… みんな楽しい 公民館まつり

2月23、24両日、第37回植田公民館まつりが開催されました。公民館で活動する77のサークルが紹介されたほか、売店や子ども体験コーナーなど、さまざまなアトラクションを設置。2日間で約3,200名が訪れました。



↑東田保育園27名の子どもたちによる和太鼓演奏でスタート!



↑力強いソーラン節の披露も



→関係者によってテープカットも行われました



↓「勿来八景フォトコンテスト」の入賞作品も展示されました



↓スタートと同時に、一斉に館内へ押し寄せる人々

子ども体験コーナー



大人気のバザーは、あっという間に商品が売り切れに!



売店コーナーもたくさんの人で賑わいました

サークル活動紹介



芸能発表会



みんなで
お祝い

誕生日&雛祭り

3月1日夕見が丘幼稚園で、誕生日を迎えた3名の園児のお祝いと雛祭り会を兼ねて「ひなまつりおたんじょうかい」が行われました。会では、誕生日を迎えた園児たちにお祝いの歌が贈られ、それぞれにメッセージカードがプレゼントされました。その後、先生が雛祭りにまつわる話を説明。園児たちは真剣に耳を傾けていました。

また、園児たちによるデコレーションケーキ作りも行われ、それぞれ工夫を凝らしたケーキが完成しました。



↑夢中になってフルーツを盛り付ける園児たち

→みんなで元気に歌って、誕生日を祝いました



佐糠・植田地区にて懇談会開催

「津波避難のための防災・減災施設整備計画」を策定するため、2月21日に佐糠・植田地区を対象とした、第1回津波避難のための地区懇談会が植田公民館で開かれ、行政区長や消防団など、合わせて15名の方々が参加しました。

佐糠・植田地区は主要道路などがおおむね整備されていますが、震災で渋川からの遡上などによって市街地にも浸水したことから、避難対策の検討のために行なったものです。

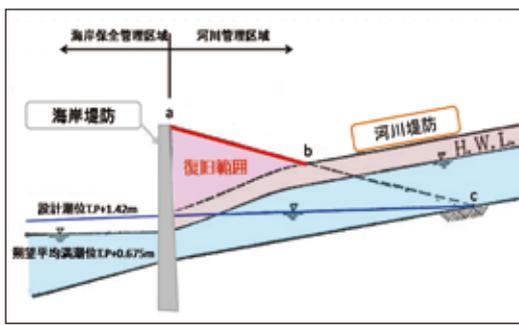
今後は、市職員の巡回をもちに施設整備計画を作成し、地区の方と再度懇談を行った上で、平成25年度に復興交付金の申請を予定しています。

河川堤防に関する説明会

1月30日、鮫川・渋川の堤防かさ上げ事業に関する説明会が、植田公民館で行われました。参加者は、鮫川、渋川の近隣住民およそ80名。会では、今回の事業方針や堤防構造に係る説明がなされました。

対象区域は、鮫川河口から県道・常磐勿来線までの約1,900mと、鮫川と渋川の合流地点から志富川橋までの約600mです。堤防は海拔約7.2mの高さで国道6号線まで設置。その上流については、7.2mの堤防から擦り付けるようにして設置される予定です。

なお詳細は、いわき建設事務所 復旧・復興課まで。
☎0246-356048



河川河口部の堤防計画方針図

元気いっぱい! なこそびと

守り続けたい...昔ながらの“味”

植田町にある〈山田精肉店〉は、昭和36年に植田町で創業して以来、地元の人々から愛され続けてきました。震災当時、店にいたという店主の山田尚弘さん。津波が襲ってくると聞いて急いで店を閉め、近所の人たちと一緒に近くの植田八幡神社に避難したそうです。幸い店まで津波は来なかったようですが、地震で壁に亀裂が入るなどして半壊となっていました。

しかし震災後も、店にあったものを売りながら休まず営業を続け、昨年4月に改装工事を開始。その間も店の裏にプレハブを建て、営業を続けていました。そして昨年7月に工事が完了。現在も、人気の惣菜などを買い求めて地元のお客さんが足を運んでいます。山田さんは「これからも昔ながらの味を大切に、地域に愛されるお店にしていきたい」と笑顔で話しています。



植田町本町13
●営業時間/8:00~18:00
●日曜日定休
☎0246-62-2705

揚げ物は、電話での注文も承っております。晩ごはんのおかずにごびどうぞ!

豆まき集会

教室を使って、生徒同士で楽しく交流

現在、地震の被害を受けた体育館の建て直し作業が進められている植田小学校。今年の7月末日に完成予定のため、今でも体育館は使用できない状態となっています。

そんななか、2月1日には各教室を使って豆まき集会が行われました。各学年混合の約15名で編成された「縦割り班」に分かれ、6年生を中心にさまざまなイベントを実施。折り紙で鬼のお面を作ったり、節分に関するワードを使ったビンゴゲームやクイズなど、上級生たちが工夫を凝らして考えたゲームで大盛り上がり。最後は、厄年の5年生が「鬼は外 福は内」と元気良く豆をまき、自分の中の追い出したい鬼を発表しました。



「鬼はそと、福はうち」と書かれた自作のかみしもを身につけ、元気いっぱい鬼を追い出しました

津波警報の改善について

気象庁では、東日本大震災による津波被害を踏まえ、3月7日から新しい津波警報・注意報の運用を開始しています。

福島地方気象台によれば、津波発生時の迅速な避難を促すための措置。マグチニュード8を超える巨大地震が発生した際、まずは、予想される津波の高さを「巨大」「高い」という言葉で発表し、非常事態であることを伝えます。

その後、地震の規模などの情報が集まり次第、予想される津波の高さ、到達時刻等の詳しい情報をお知らせします。また、発表する津波の高さは、以前の8段階から5段階に集約されました。(表参照)

詳しくは、市役所本庁舎、各支所などに備え付けてあるリーフレットや、気象庁のホームページをご覧ください。

一方、市では、地震などの災害発生時には、従来の防災行政無線に加え、昨年7月から携帯電話を活用した「緊急速報メールサービス」の配信を行っています。NTTドコモ、au、ソフトバンクの3社を同時運用。専用着信音と自動的に表示される機能のポップアップ表示で、素早く情報を確認することができます。市民だけでなく、一時的に市内にいる方も受信できます。

また、津波の危険性を再認識していただくために、東日本大震災

到達予想時刻・予想高さ		
大津波警報 (予想高さ)		
〇〇 県	津波到達中と予測	巨大
×× 県	10時30分	巨大
△△ 県	11時00分	高い
□□ 県	12時00分	高い

テレビでの津波警報時の発表イメージ
※気象庁ホームページより引用

数値で発表する場合の津波の高さ		
分類	予想される津波の高さ	
	高さの区分	発表する値
大津波警報	10m～	10m超
	5m～10m	10m
津波警報	3m～5m	5m
	1m～3m	3m
津波注意報	0.2m～1m	1m

例: 3mから5mの間の津波が予想された場合は「予想される津波の高さは5m」と発表。各区分の高い方の値をお知らせします

における浸水域や深さを示した「津波ハザードマップ(暫定版)」の配布もしています。詳しくは市危機管理課まで。

- 津波警報についてのお問い合わせ
福島地方気象台防災業務課 ☎024-534-0321
- 緊急メール速報などについてのお問い合わせ
市危機管理課 ☎0246-22-7551

やっぱり、いわきが好きだから ボラセンだより No.11



私たち生活支援相談員は、笑顔と元気ををお届けします



みんなで力を合わせれば、何でもできるはず



僕にだって作れるさ、お兄ちゃんと一緒なら

平成23年3月11日(金)午後2時46分、多くの方の人生が変わった瞬間です。東日本大震災により多くの尊い命と慣れ親しんだ風景(地域)を失いました。

私たち、いわき市社会福祉協議会は、全国からの温かい支援を受けながら、3月16日に「いわき市災害救援ボランティアセンター」を立ち上げました。地震、津波で変わり果てた家や地域の片付け、土砂が溜まってしまった側溝の掃除などに、5万人を超えるボランティアのマッチング(受入調整)などを行い、本市の復興に全力で取り組んできました。

同年8月からは、いわき市復興支援ボランティアセンターに名称、機能を変更し、生活支援相談員により約2,200戸の仮設住宅(民間借上げ住宅含む)を一軒一軒、見守り訪問しながら、被災された方のお話を聴き、その方に必要な支援を考え、生活再建のお手伝いをするとともに、集会所などを活用し、各関係機関・団体と協働でイベント・サロン活動に取り組んでおります。

私たちは、被災された方々が少しでも「笑顔」になるよう「熱い力」と「優しい気持ち」そして、「喜び」を届けることが使命だと思っています。

いわきが好きだから、いわき市社会福祉協議会は、全力で復興支援活動に取り組めます。

いわき市社会福祉協議会 いわき市復興支援ボランティアセンター

いわき市平字菱川町1番地の3 ☎0246-38-6631

<http://iwakisaigaivc.blog.fc2.com/>

携帯電話の方は右記のQRコードからアクセスできます。



作って楽しいひなまつり



in 高久仮設住宅

2月24日、中央台高久第一応急仮設住宅の集会所で「NPO法人フォーライフ」(埼玉県草加市)主催の、バレンタインデーと桃の節句を一緒に祝う会が開かれました。

参加者は、ミニシュークリームやチョコレートを使ったお雛様作りに挑戦。いろんなトッピングでデコレーションし、一口サイズの可愛いお雛様が出来上がりました。部屋中が甘い香りでいっぱいになり、子どもたちは大はしゃぎ。お昼時には、住民一人ひとりに五目飯が配られ、心もおなかも春の訪れを感じた1日でした。



みなさん思い思いのお雛様を作りご満悦でした

ふるさとからのお知らせ

久之浜・大久

- 海竜の里センター
屋内遊戯施設オープン
3月23日(土) 10:00～
オープニングセレモニー
☎0246-82-2772

- ひさのはま感謝祭
～さよなら久之浜公民館～
3月24日(日) 9:30～14:00
久之浜公民館 ☎0246-82-2165

平

- 個別相談・生活再建サポートセンター
◆生活再建、事業再開など
3月24、25、29、30日10:00～15:00
◆福祉に関する総合相談
3月26日9:30～11:30
◆健康相談
3月27日9:30～11:30

ふるさとだよりに情報やご感想をお寄せください!

- メールの方 / furusato@asally.co.jp
- 携帯電話からのメール
QRコードを読み取ってください。→
- FAXの方 / ☎0246-26-5157
- おたよりの方 / 下記編集室まで



いわき市
ふるさとだより 第22号

平成25年3月20日発行

- 発行: いわき市
- 編集: 有限会社 いまあじゅ ふるさとだより編集室
- 編集室: 〒973-8411 福島県いわき市小島町3丁目3-3
プリンセス・アイ1F
Tel & Fax: 0246-26-5157
Mail: furusato@asally.co.jp
<http://www.furusatodayori.com>